



第 19 号



岩江中だより

発行日：令和5年 2月28日  
 文責：三春町立岩江中学校長  
 電話：0247-62-8290  
 FAX：0247-62-8380  
 Email：iwae-j@fcs.ed.jp

学校経営のテーマ 『変えてはならないものを守るために、変えるべきものを変え続ける』

いただいたご意見を大切に、教育活動の充実につなげます。

生徒・保護者・教職員・学校運営協議会委員の皆さんから、学校の教育活動について貴重なご意見をいただきました。これからの学校経営に反映させ、教育活動を一層充実させることにより、子どもたちの成長につなげてまいります。なお、自由記述にていただきました個別のご意見についても、十分に吟味し教育活動に反映させてまいりますので、これからもよろしくお願いたします。

### 令和4年度 学校評価アンケートに基づく自己評価

中項目	小項目	小項目評価	中項目評価	評価結果の考察	課題改善に向けて
教育課程	①教育目標の設定	4	4	○生徒の実態を捉え、達成感や自己肯定感が得られる場面を設けることで、充実した学校生活が送れているものと考えられる。 ○コロナ禍ではあったが、様々な工夫により通常の教育活動を実施できたことが、生徒が前向きに学校生活を送ろうとする意欲にもつながったと考える。	○キャリア教育の視点から、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応力、キャリアプランニング能力を育むための教育活動の充実と、教育方法の変革を更に進める。 ○生徒の実態を保護者・地域と共有し、連携をさらに強め、社会に開かれた教育課程の編成・実施を目指す。
	②教育課程の編成	4			
教科指導	①個に応じた指導	3	3	○課題設定や学習形態などの授業の工夫・改善により、生徒が積極的に授業に臨むなど、学習意欲の向上につなげることができた。 ○授業に意欲的に取り組んでいるが、基礎学力の定着に課題が残る。「わかりにくいことを先生に質問している」という項目の評価が低いことが示しているように、わからないところがそのままになり、確実な学力定着に至っていない状況が見られる。 ○生徒一人ひとりの学習におけるつまづきを把握し、個に応じた支援をいかに充実させるかが課題である。	○学習コンテンツを活用し、キャリア教育の視点で、R-PDCAサイクルにより家庭学習を充実させるなど、学習習慣の確立を目指す。 ○教科センター方式の強みを生かし、教科研究室やオープンスペースを有効活用し、生徒の学習の悩みを気軽に相談できる環境・体制づくりを推進する。 ○校内研修を通して、生徒の学び姿から指導方法の工夫・改善の手だてを共有し、授業力向上に努める。
	②評価	4			
道徳教育	①心の育成	4	4	○道徳の授業では、他者と意見を伝え合い深く考える時間を大切に、道徳的価値を身に付けられるように努めた。 ○全校ボランティアや福祉体験などの体験的な活動とおとして、道徳実践力を高めることができた。	○道徳教育推進教師を中心として、ローテーション道徳など多様な道徳の授業の在り方について、研修し改善に努める。 ○議論する道徳実践の基盤として、学級力を向上させ、一人ひとりが安心して発言したり、認められたりする集団づくりに努める。
	②議論する道徳	3			
特別活動	①魅力ある学校行事	4	4	○学校行事においては、「正しい恐れ方」を念頭にコロナ対策を行い、生徒の活動を保障できるよう工夫しながら実施した。生徒は行事の意義に触れながら積極的に取り組むことができた。 ○各種行事等における生徒の活躍の場の設定、リーダーの育成、さらには自立に向けての教師の支援のあり方等について、教員間で共通理解を深め実践してきた。	○生徒の主体的な活動と活躍の場を設定し、成功体験に結びつくような行事を計画するために、行事の目的や教職員の役割分担など綿密に計画し、子どもの成長の視点で捉え直す。 ○行事の必要性やよりよい方法の検討を継続し、磨け上がった教育課程を多忙化解消の視点でも精選し、生徒にとって真に必要な行事を、より効果の上がる方法で実施する。
	②主体的活動	4			
	③進路指導	4			
特別支援教育	①インクルーシブ教育	4	4	○特別支援コーディネーターを中心に、校内での組織的な支援体制を構築し、介助員、スクールカウンセラー、養護教諭、授業者等が情報共有と行動連携のもと支援できるように努めた。 ○生徒の実態や保護者の願いを踏まえ、町教育委員会や関係機関との連携を図り、個別の支援につなげることができた。	○次年度は、特別支援学級が1クラス増設となり、3学年それぞれに所属することになる。インクルーシブ教育充実のための支援体制の強化をさらに進める。 ○配慮を要する生徒への指導の在り方や、発達障がいへの理解を深めるため、校内研修や特別支援教育委員会の充実を図る。
	②校内の支援体制	4			
	③個別の支援計画	4			
生徒指導	①組織的な生徒指導	4	4	○毎週の生徒指導委員会開催により、情報を共有するとともに、組織としての対応を協議し、実態に応じた指導をすることができた。 ○スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り、個に応じた支援体制を構築し対応することができた。 ○スマホ、SNS等については、講演会を始め、学年懇談会や他の集会等でも話題として取り上げ、指導力を入れてきた。	○教科センター方式など、校舎設計の利点を生かした「自立」を促す積極的な生徒指導を、教職員の共通理解のもと継続していく。 ○ガイダンスの機能を充実させ、生徒が主体的に判断し、行動し、前向きに学校生活を送れるようにする。 ○相談しやすい環境づくりをする。学校だより等で情報を発信し、地域・家庭に開かれた生徒指導に努める。
	②教育相談・生徒理解	4			
	③安全指導	4			
	④基本的生活習慣	4			
組織運営情報管理	①学校経営目標・方針	4	4	○学校だよりやホームページなどで積極的に情報を発信した成果が十分に認められる。 ○教員一人一人が担当する業務が多く、かつ多岐にわたるため負担感が多かったと推測される。また、校務支援システムが十分に機能を果たさず、多忙感の軽減には効果が少なかった。	○三春の教育や校舎設計の理念を踏まえ、岩江中の強みと新たな教育の潮流をリンクさせた学校経営ビジョンを教職員で共有し、地域や保護者に発信する。 ○学校教育のデジタル化が進む中で、情報セキュリティの強化、教職員・生徒の情報リテラシーの向上を図る。
	②校務分掌等の連携	3			
	③個人情報保護・管理	4			
研修	①校内研修	4	4	○「生徒に寄り添った学びの見取り」についての見識を深め、研究授業においてそのスキルを磨くことができた。また、研修テーマの見直しを図り、組織的に授業改善へ向けた取組を継続している。 ○リモートやオンラインの研修会にも積極的に参加し、授業力や指導力向上に努めている。	○学校教育の今日的課題を踏まえた研修の充実により、授業力向上やICTの効果的な活用につなげていく。 ○現職教育委員会の更なる活性化を図るとともに、校外での研修内容を確実に伝達・共有し、教職員の資質能力の向上に努める。
	②研修態度	4			
保護者・地域との連携	①学校情報の発信	4	4	○ホームページ等による日常的な情報発信により、保護者、地域との連携や信頼関係構築に効果が上がっているものと考えられる。コロナに関する積極的な発信は高評価をいただいた。 ○学校運営協議会は、学校に対する地域の期待や願いの共有と、相互理解を深める場として十分に機能しており、特に地域学習においては、小中の系統を意識した教育課程を実施することができた。	○コロナ禍ではあるが、引き続き学校運営協議会の機能を最大限に生かし、社会に開かれた学校・教育課程の実現に努めるとともに、地域の教育力・人材活用など、積極的な取組を継続して進めたい。 ○PTA組織の見直しや活動方法の工夫によって、保護者・教職員の負担を軽減し、参加しやすい環境づくりを進める。
	②学校(授業)公開	4			
	③家庭・地域との連携	3			
設備・施設	①設備・施設の利用	4	4	○当館・修理の必要な部分が生じている現状ではあるが、随時、町教委に依頼し改善できる部分については改善してもらっている。 ○清掃活動への取組状況が良くなってきた。奉仕活動にも積極的に取り組んでいる生徒が多いので自分たちの環境は自分たちでよりよくするという意識づけをしていく。	○優先事項を吟味し、計画的な環境改善に努めたい。 ○ICT機器の導入が急速に進んだ中、有効に活用できるよう管理し、運用していきたい。 ○環境整備のために随時ボランティアを募り、自分たちの手で環境整備をするという態度を育てる。
	②教育環境の整備	4			

※項目の評価については、生徒、保護者、教職員、学校運営協議会委員のアンケート結果から判断し評価しています。

※アンケート結果の肯定的意見が概ね80%以上を「4」、60%以上80%未満を「3」、40%以上60%未満を「2」、40%未満を「1」としています。

(「4」:達成されている 「3」:ほぼ達成されている 「2」:あまり達成されていない 「1」:達成されていない)